

「津山市第5次総合計画まちづくり市民満足度調査」結果（中間評価）

- 1 調査の目的 津山市第5次総合計画策定から5年目を迎えるにあたり、これまで進めてきた本市のまちづくりに対する市民満足度を把握し、これまでの進捗度を測るとともに、今後のまちづくりの参考資料とする。
- 2 実施期間 令和2年5月7日（木）～6月10日（水）
- 3 対象者 3,000名
(住民基本台帳に登録のある20歳以上の方を無作為抽出)
- 4 調査項目 下記のとおり
- 5 回答結果 回答者数：1,211名 回答率：40.4%
※前回調査（平成27年度） 回答者数：973名 回答率：32.4%

【調査項目】

設問	開花プログラム	設問の内容
問1	妊娠・出産支援の充実	安心して妊娠・出産できる支援が充実している
問2	乳幼児保健の充実	子どもの健康の保持・増進に関する支援が充実している
問3	幼児教育・保育の充実	子どもが安心して幼児教育や保育を受けることができる
問4	子育て支援の充実	子育てに関する不安や孤立感を解消するための相談窓口や支援サービスが充実している
問5	義務教育の充実	小中学校の教育内容や指導が充実し、子ども達がいそいそと学校生活を送っている
問6	教育環境の充実	小中学校の施設は安全・安心が確保されており、子ども達にやさしい施設になっている
問7	高等教育機関との連携	地域の発展や活性化に向けて、津山市と大学・高専との連携が図られている
問8	家庭・地域の教育力の充実	家庭と地域が連携して、子ども達を育てる体制が整っている
問9	青少年の健全育成	地域と家庭と学校が連携して、青少年の健全育成活動が実施されている
問10	生涯学習の推進	誰もが等しく学べるよう図書館や公民館活動などが充実している
問11	スポーツ活動の充実	市民がスポーツ活動を気軽に楽しむことができている
問12	芸術・文化活動の充実	講演会やコンサート、展覧会などの芸術文化活動が行われている
問13	国際交流・地域間交流の推進	外国や市外他地域の人たちとの友好交流が図られている
問14	歴史文化の継承と文化財の保存・活用	文化財や伝統文化を保護・継承し、保存・活用できている
問15	医療体制の充実	地域医療や救急医療が充実しており、安心の医療体制が整っている
問16	健康づくりの推進	地域ぐるみの健康づくりや食育の推進など、からだと心の健康づくりが推進できている
問17	地域福祉の充実	地域の住民が互いに助け合い、安心して暮らすことができている
問18	高齢者福祉の充実	高齢になっても介護サービス等を利用して、住み慣れた地域で暮らし続けることができている
問19	障害者福祉の充実	障害者支援サービスなど、障害者福祉が充実している安心して妊娠・出産できる支援が充実している
問20	低所得者福祉の充実	生活に困った時、相談したり、自立を支援する体制が整っている
問21	国民健康保険事業の充実強化	国民健康保険事業の健診と、健康指導が充実している
問22	人権の尊重・平和施策の推進	一人ひとりの人権が尊重されている
問23	男女共同参画社会の実現	社会的に男女の格差がなくなり、男女共同参画が進展している
問24	地域活動の推進	町内会活動など、地域活動の充実が図られている
問25	地域力の強化	地域の担い手育成が進み、地域の支えあいなど、地域力の強化が進んでいる

設問	開花プログラム	設問の内容
問26	商業の振興	商業施設が充実し、買い物が便利である
問27	中心市街地の活性化	中心市街地が活性化し、まちににぎわいがある
問28	雇用の創出	自分の能力を活かせる企業が誘致され、働く場が多様で、雇用の場が確保できている
問29	定住推進	I・J・Uターンへの支援や就職情報の提供がなされ、地元企業への就職が促進されている
問30	工業の振興	ものづくりの支援が充実し、企業誘致や新産業の創出が行われている
問31	農業の振興	農業の担い手が育成、確保され、農地が有効に利用されている
問32	林業の振興	地域資源の利用を促進し、森林資源が有効に循環利用されている
問33	農林業の高付加価値化	農林業の6次産業化や農商工連携など、農林産物の付加価値を高める取り組みが進んでいる
問34	水産業の振興	各種イベントを通じて、地元産の川魚の消費拡大が図られている
問35	観光の振興	観光資源やイベントが充実しており、本市に多くの観光客が訪れている
問36	低炭素都市の実現	地球温暖化防止のための施策が充実し、市民への意識高揚が図られている
問37	循環型社会の実現	廃棄物の安全な処理と、資源循環型社会の実現が図られている
問38	生活環境の保全	公害の少ない快適な生活環境が保たれている
問39	公園整備と緑地保全	公園が快適に利用でき、身近な緑地が保全されている
問40	水道の安定供給	いつでも安全でおいしい水を飲むことができる
問41	下水道の整備	下水道や合併処理浄化槽の整備が進み、生活環境が向上している
問42	自然と調和した都市整備	豊かな自然と都市が調和した土地利用ができ、地域の特徴を生かしたまちづくりができている
問43	交通基盤の整備	円滑な交通が確保され、安全で快適な道路整備が進んでいる
問44	公共交通網の充実	誰もが利用しやすい便利な公共交通網が整備されている
問45	歴史まちづくりと景観の保全	歴史と文化を活かしたまちづくりを推進し、美しい景観を保全できている
問46	居住環境の整備	住宅の省エネルギー化や耐震化などの啓発や普及が進み、良好な居住環境が整備されている
問47	防災体制の充実と防災意識の啓発	防災体制が整備され、市民の防災意識の向上が図られている
問48	災害予防と減災の推進	土砂災害や浸水被害などに対する防災・減災対策が進み、災害予防ができている
問49	防犯対策と消費者保護	自主防犯活動の推進等により、犯罪や消費者被害の心配が少ないまちづくりができている
問50	交通安全対策の推進	交通安全対策が進み、交通事故の少ない安全なまちづくりができている
問51	演習場対策	日本原演習場の対策が図られている
問52	共創・協働の推進	市民・事業者・団体と行政による共創・協働のまちづくりが推進できている
問53	津山の魅力発信	津山の良さが効果的に発信され、魅力度アップにつながっている
問54	行財政改革と情報化の推進	行財政改革が行われ、組織の活性化と確実に速やかな市民対応ができている
問55	広域連携の推進	周辺自治体との連携を深め、県北の拠点都市として、津山圏域の一体的な振興が図られている
【追加項目】		
問56	定住意向	今後も津山に住み続けたいと思う
問57	郷土への愛着	津山が好きである

満足度→	わからない	不満	やや不満	どちらともいえない	おおむね満足	満足
- 評価 -	—	- 1 -	- 2 -	- 3 -	- 4 -	- 5 -

○ 満足度の算出方法

「わからない」を除外し、5点～1点を配点し、加重平均値を導き出し、100点換算した。

6 統括（全体）分析【問1～問55】

（1）総合満足度

総合満足度の平均点は、57.20と、平成27年度調査より1.90ポイント上昇しました。（平成27年度：55.30）

男女別では、男性が56.00、女性が57.80となっており、女性が1.80ポイント上回っています。

年齢別では、70歳代以上（60.20）が最も高く、次いで20歳代（59.40）、30歳代以上（58.20）となっています。一方、50歳代（53.60）が最も低くなっています。

①【総合満足度】平均点（属性別）

回答者属性 (令和2年度調査)		総合満足度		
		今回 (令和2年度)	前回 (平成27年度)	
全体 (性別・年齢不詳を含む)		1,211人	57.20	55.30
性別	男性	505人	56.00	53.10
	女性	671人	57.80	56.60
年齢別	20歳代	(男) 45人	59.40	54.00
		(女) 53人		
	30歳代	(男) 76人	58.20	53.20
		(女) 112人		
	40歳代	(男) 64人	56.40	53.40
		(女) 114人		
	50歳代	(男) 94人	53.60	54.20
		(女) 122人		
	60歳代	(男) 97人	55.00	53.60
		(女) 107人		
	70歳代以上	(男) 129人	60.20	60.00
		(女) 163人		

(2) 項目別満足度

項目別満足度は、1位は前回（平成27年度）と同様「水道の安定供給」で、満足度数値（82.70）は前回（79.30）より3.40ポイント上昇し、水道施設の適切な維持管理と安全で良質な水の安定的供給が図られている結果の現れと考えられます。

2位は、「下水道の整備」（前回10位）で、汚水処理未普及地域の解消に向けた、公共下水道の計画的な整備と合併処理浄化槽の設置を促進する取組は、衛生的な生活環境の確保や河川の水質保全につながり、安全で快適な暮らしに貢献しています。

3位は、「教育環境の充実」（前回9位）で、満足度が上昇している理由としては、子供たちが安全・安心に学習できる良好な教育環境を確保するため、市内全小中学校におけるICT環境の整備やエアコンの設置を進め、多様化する学習内容への対応や、熱中症対策が適切に行われたことが要因と思われます。

一方、下位の項目をみると、53位は、「農業の振興」（前回54位）で、今後、農業の持続的発展を促すためには、担い手や生産基盤の維持・確保など生産側の仕組みを強化するとともに、地域商社機能や域外での農産物直売所などの出口戦略を進めていく必要があります。

54位は、「水産業の振興」（前回52位）で、内水面漁業を振興し、生産性を高めていくためには、従来の放流事業に加え養殖事業に取り組み、市場に流通させる仕組みづくりが必要です。

最下位は「中心市街地の活性化」（前回最下位）となりました。まちに賑わいを創出するには、城東、城下、城西地区の回遊性を高め、一体的なエリアとしての魅力向上や、コンベンションホールを持つ「ザ・シロヤマテラス津山別邸」などとも連携し、ひと、もの、情報が活発に交流する環境を整えることが重要です。

(3) 前回との比較

総合満足度は、57.18となり、前回（平成27年度）より2.11ポイント上昇となりました。

項目ごとの満足度を見ると、55項目中48項目において上昇となりました。

上昇幅が最も大きかった項目は「資源循環型社会の実現」（+8.34ポイント）で、市民協働による青空リサイクルプラザや資源回収拠点等の活動や、学校や地域における環境学習活動の推進により、ごみの減量化やリサイクル、環境に配慮したライフスタイルや価値観が広く浸透してきた成果と考えられます。

一方で、下降幅が最も大きかった項目は「居住環境の整備」（▲5.83ポイント）で、人口減少・少子高齢化による空き家の増加なども影響していると推察します。

【満足度】

上げ幅		下げ幅	
資源循環型社会の実現 (+ 8.34)		居住環境の整備 (▲ 5.83)	
55.70	 64.04	61.00	 55.17
下水道の整備 (+ 6.75)		農林業の高付加価値化 (▲ 2.25)	
63.00	 69.75	46.50	 44.25

自然と調和した都市機能 (+ 6.11)	水産業の振興 (▲ 2.13)
52.70  58.81	41.20  39.07

I - 1 【満足度：平均点一覧（設問順）】

設 問	満足度	前回	順位	前回
問1 妊娠・出産支援の充実	67.40	64.80	7位	6位
問2 乳幼児保健の充実	67.13	64.20	8位	8位
問3 幼児教育・保育の充実	68.89	66.70	4位	2位
問4 子育て支援の充実	64.14	60.20	13位	17位
問5 義務教育の充実	66.03	61.80	9位	11位
問6 教育環境の充実	68.92	63.50	3位	9位
問7 高等教育機関との連携	59.03	56.90	27位	26位
問8 家庭・地域の教育力の充実	59.41	56.60	25位	28位
問9 青少年の健全育成	59.15	54.90	26位	33位
問10 生涯学習の推進	67.50	65.20	6位	4位
問11 スポーツ活動の充実	61.92	60.40	19位	16位
問12 芸術・文化活動の充実	60.33	59.70	23位	18位
問13 国際交流・地域間交流の推進	50.94	50.50	42位	40位
問14 歴史文化の継承と文化財の保存・活用	64.77	61.70	11位	12位
問15 医療体制の充実	61.02	58.70	21位	23位
問16 健康づくりの推進	62.28	59.10	18位	20位
問17 地域福祉の充実	61.49	59.70	20位	19位
問18 高齢者福祉の充実	63.03	58.50	17位	24位

I - 2 【満足度：平均点一覧（設問順）】

設 問	満足度	前回	順位	前回
問19 障害者福祉の充実	59.46	59.10	24位	21位
問20 低所得者福祉の充実	56.22	53.70	34位	35位
問21 国民健康保険事業の充実強化	64.69	65.20	12位	5位
問22 人権の尊重・平和施策の推進	63.62	60.80	15位	15位
問23 男女共同参画社会の実現	58.10	56.90	30位	27位
問24 地域活動の推進	65.92	64.30	10位	7位
問25 地域力の強化	51.76	52.20	41位	39位
問26 商業の振興	56.17	57.50	35位	25位
問27 中心市街地の活性化	34.61	33.60	55位	55位
問28 雇用の創出	41.00	39.40	52位	53位
問29 定住推進	45.38	41.70	47位	49位
問30 工業の振興	46.52	45.00	46位	47位
問31 農業の振興	40.49	39.20	53位	54位
問32 林業の振興	42.87	42.50	50位	48位
問33 農林業の高付加価値化	44.25	46.50	49位	43位
問34 水産業の振興	39.07	41.20	54位	52位
問35 観光の振興	45.13	41.60	48位	51位
問36 低炭素都市の実現	41.95	41.70	51位	50位
問37 循環型社会の実現	64.04	55.70	14位	30位
問38 生活環境の保全	67.58	66.30	5位	3位
問39 公園整備と緑地保全	58.92	56.60	28位	29位

I - 3 【満足度：平均点一覧（設問順）】

設 問	満足度	前回	順位	前回
問40 水道の安定供給	82.70	79.30	1位	1位
問41 下水道の整備	69.75	63.00	2位	10位
問42 自然と調和した都市整備	58.81	52.70	29位	38位
問43 交通基盤の整備	56.88	53.60	33位	36位
問44 公共交通網の充実	47.66	45.70	45位	45位
問45 歴史まちづくりと景観の保全	63.51	59.00	16位	22位
問46 居住環境の整備	55.17	61.00	38位	14位
問47 防災体制の充実と防災意識の啓発	55.96	55.50	36位	31位
問48 災害予防と減災の推進	53.31	52.90	39位	37位
問49 防犯対策と消費者保護	56.90	54.30	32位	34位
問50 交通安全対策の推進	57.95	55.50	31位	32位
問51 演習場対策	61.60	61.70	22位	13位
問52 共創・協働の推進	55.39	50.10	37位	41位
問53 津山の魅力発信	48.02	45.30	44位	46位
問54 行財政改革と情報化の推進	48.20	46.20	43位	44位
問55 広域連携の推進	53.03	49.10	40位	42位

Ⅱ - 1 【満足度：平均点一覧（満足度順）】

順位	前回	設 問	満足度	前回
1位	1位	水道の安定供給	82.70	79.30
2位	10位	下水道の整備	69.75	63.00
3位	9位	教育環境の充実	68.92	63.50
4位	2位	幼児教育・保育の充実	68.89	66.70
5位	3位	生活環境の保全	67.58	66.30
6位	4位	生涯学習の推進	67.50	65.20
7位	6位	妊娠・出産支援の充実	67.40	64.80
8位	8位	乳幼児保健の充実	67.13	64.20
9位	11位	義務教育の充実	66.03	61.80
10位	7位	地域活動の推進	65.92	64.30
11位	12位	歴史文化の継承と文化財の保存・活用	64.77	61.70
12位	5位	国民健康保険事業の充実強化	64.69	65.20
13位	17位	子育て支援の充実	64.14	60.20
14位	30位	資源循環型社会の実現	64.04	55.70
15位	15位	人権の尊重・平和施策の推進	63.62	60.80
16位	22位	歴史まちづくりと景観の保全	63.51	59.00
17位	24位	高齢者福祉の充実	63.03	58.50
18位	20位	健康づくりの推進	62.28	59.10
19位	16位	スポーツ活動の充実	61.92	60.40
20位	19位	地域福祉の充実	61.49	59.70
21位	23位	医療体制の充実	61.02	58.70

Ⅱ - 2 【満足度：平均点一覧（満足度順）】

順位	前回	設 問	満足度	前回
22位	13位	演習場対策	60.60	61.70
23位	18位	芸術・文化活動の充実	60.33	59.70
24位	21位	障害者福祉の充実	59.46	59.10
25位	28位	家庭・地域の教育力の充実	59.41	56.60
26位	33位	青少年の健全育成	59.15	54.90
27位	26位	高等教育機関との連携	59.03	56.90
28位	29位	公園整備と緑地保全	58.92	56.60
29位	38位	自然と調和した都市整備	58.81	52.70
30位	27位	男女共同参画社会の実現	58.10	56.90
31位	32位	交通安全対策の推進	57.95	55.50
32位	34位	防犯対策と消費者保護	56.90	54.30
33位	36位	交通基盤の整備	56.88	53.60
34位	35位	低所得者福祉の充実	56.22	53.70
35位	25位	商業の振興	56.17	57.50
36位	31位	防災体制の充実と防災意識の啓発	55.96	55.50
37位	41位	共創・協働の推進	55.39	50.10
38位	14位	居住環境の整備	55.17	61.00
39位	37位	災害予防と減災の推進	53.31	52.90
40位	42位	広域連携の推進	53.03	49.10
41位	39位	地域力の強化	51.76	52.20

Ⅱ - 3 【満足度：平均点一覧（満足度順）】

順位	前回	設 問	満足度	前回
42位	40位	国際交流・地域間交流の推進	50.94	50.50
43位	44位	行財政改革と情報化の推進	48.20	46.20
44位	46位	津山の魅力発信	48.02	45.30
45位	45位	公共交通網の充実	47.66	45.70
46位	47位	工業の振興	46.52	45.00
47位	49位	定住推進	45.38	41.70
48位	51位	観光の振興	45.13	41.60
49位	43位	農林業の高付加価値化	44.25	46.50
50位	48位	林業の振興	42.87	42.50
51位	50位	低炭素都市の実現	41.95	41.70
52位	53位	雇用の創出	41.00	39.40
53位	54位	農業の振興	40.49	39.20
54位	52位	水産業の振興	39.07	41.20
55位	55位	中心市街地の活性化	34.61	33.60

7 属性別分析

(1) 総合満足度及び項目別満足度の状況

I 【総合満足度及び6項目に関する満足度の状況】

区分		総合満足度	満足度上位項目			満足度下位項目		
			1位	2位	3位	53位	54位	55位
			水道の安定供給	下水道の整備	教育環境の充実	農業の振興	水産業の振興	中心市街地の活性化
平均値		57.20	82.70	69.75	68.92	40.49	39.07	34.61
性別	男性	56.00	83.43	67.36	68.42	39.61	37.39	32.73
	女性	57.80	82.24	71.32	69.39	40.81	40.20	35.91
年齢	20歳代	59.40	79.36	72.41	68.25	47.32	47.33	41.49
	30歳代	58.20	80.34	71.06	69.93	45.80	43.76	37.61
	40歳代	56.40	80.79	68.05	68.03	42.31	40.37	32.95
	50歳代	53.60	81.50	66.93	65.66	34.91	37.50	31.74
	60歳代	55.00	83.56	68.79	65.83	37.13	35.71	32.02
	70歳代以上	60.20	87.13	71.86	74.15	39.91	35.48	35.05

(2) 上位・下位項目の状況

I 【性別】

区分	満足している			満足していない		
	1位	2位	3位	53位	54位	55位
男性	水道の安定供給	教育環境の充実	生活環境の保全	農業の振興	水産業の振興	中心市街地の活性化
女性	水道の安定供給	下水道の整備	幼児教育・保育の充実	水産業の振興	雇用の創出	中心市街地の活性化

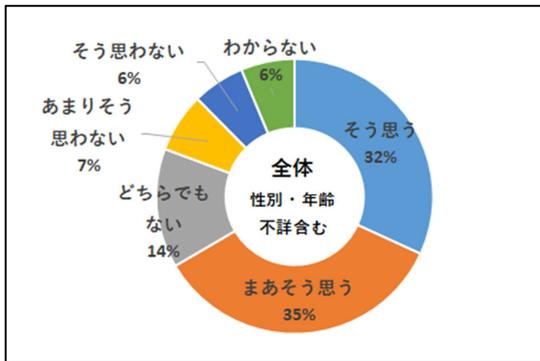
II 【年齢別】

区分	満足している			満足していない		
	1位	2位	3位	53位	54位	55位
20歳代	水道の安定供給	下水道の整備	生活環境の保全	低炭素都市の実現	企業誘致と雇用の確保	中心市街地の活性化
30歳代	水道の安定供給	幼児教育・保育の充実	下水道の整備	低炭素都市の実現	企業誘致と雇用の確保	中心市街地の活性化
40歳代	水道の安定供給	下水道の整備	教育環境の充実	水産業の振興	低炭素都市の実現	中心市街地の活性化
50歳代	水道の安定供給	生活環境の保全	下水道の整備	水産業の振興	農業の振興	中心市街地の活性化
60歳代	水道の安定供給	下水道の整備	幼児教育・保育の充実	農業の振興	水産業の振興	中心市街地の活性化
70歳代以上	水道の安定供給	教育環境の充実	幼児教育・保育の充実	林業の振興	水産業の振興	中心市街地の活性化

8 「定住意識」および、「郷土への愛着」【追加項目】

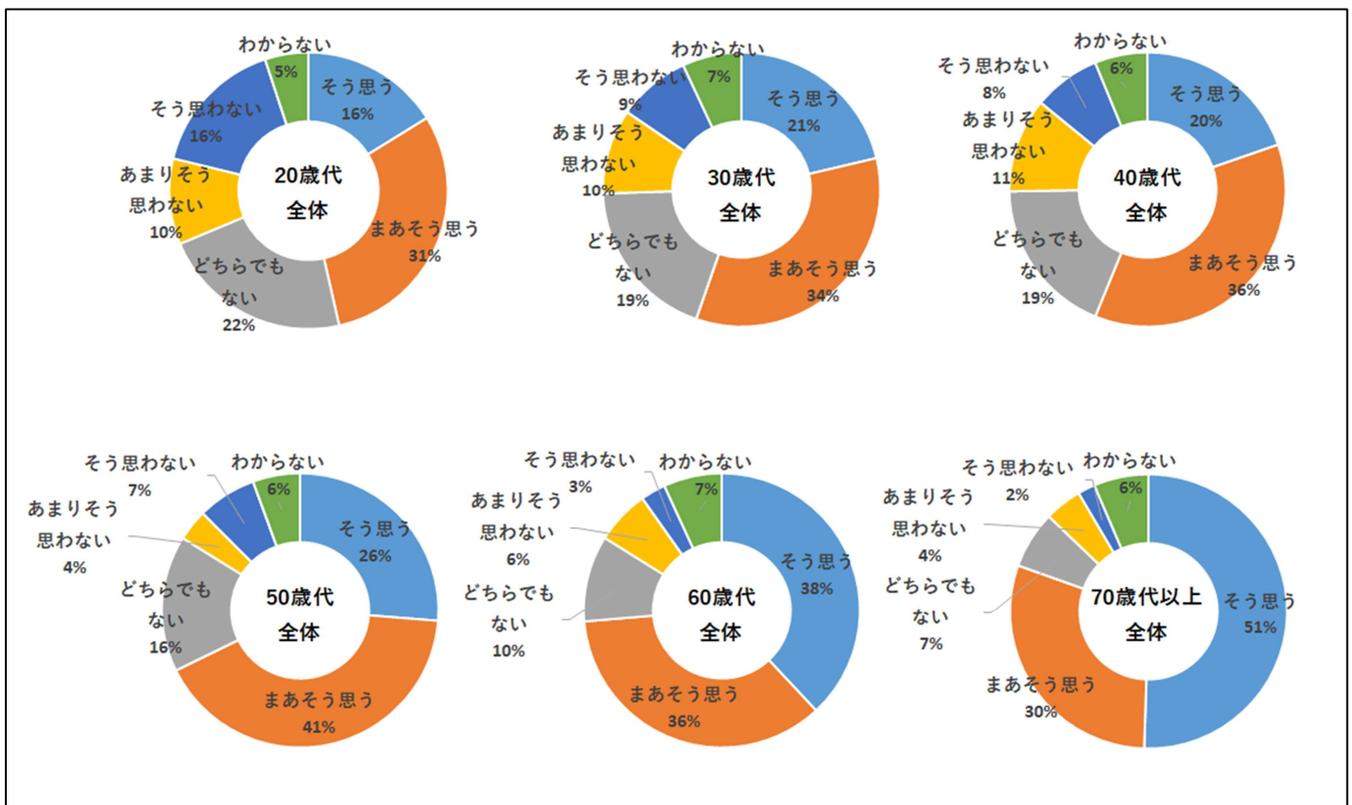
(1) 定住意識 設問：「今後も津山に住み続けたいと思う」

I - 1 【全体回答】（男性・女性・性別不詳・年齢不詳を含む）



市民全体の回答状況を見ると、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は67%でした。一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人は13%となっており、多くの方が今後も津山市に住み続けたいと感じていることがわかります。

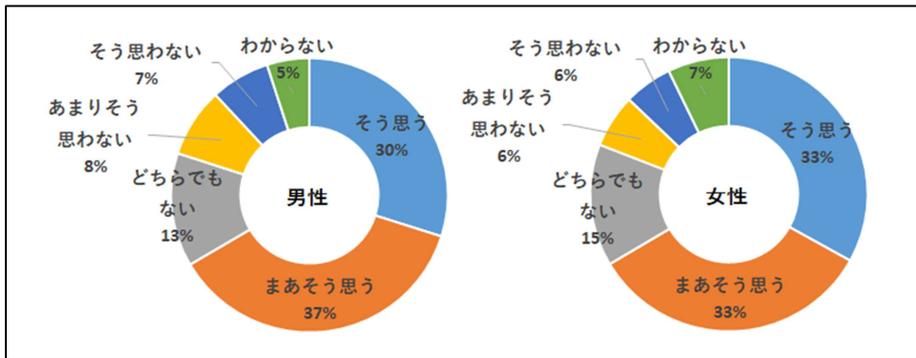
I - 2 【世代別回答】（男性・女性・性別不詳を含む）



「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合を世代別に見ると、20歳代が47%と最も低くなっていますが、30歳代になると54%と過半数を超え、年代が上がるに連れてその割合は高くなり、70歳代以上では81%となっています。

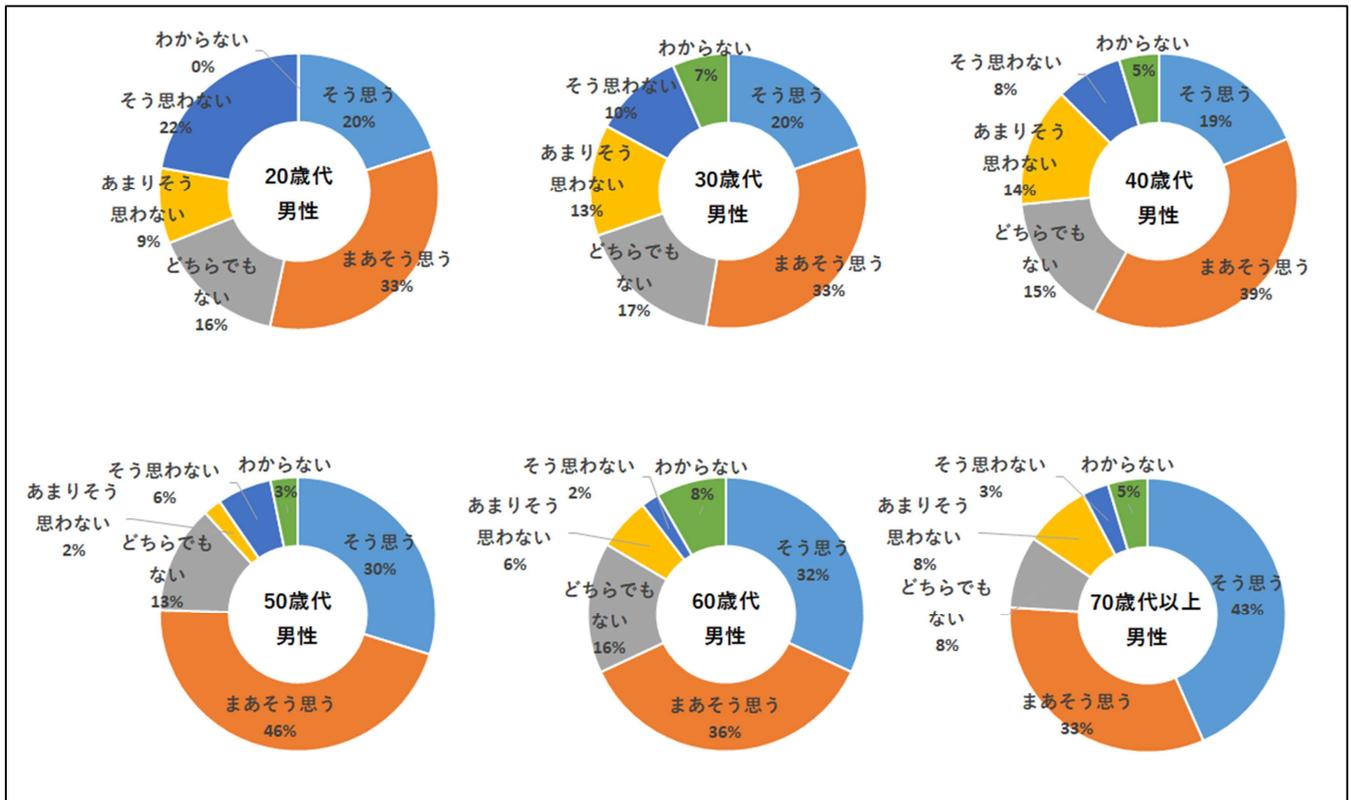
一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人は、20歳代では26%と最も高くなっていますが、年代が上がるに連れてその割合は低くなり、60歳代では9%、70歳代以上では6%と全体の1割未満まで低下しています。

Ⅱ - 1 【男女別回答】（年齢不詳を含む）



「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は、男性は67%、女性が66%でした。一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人は男性が15%、女性が12%となっており、定住意識の回答割合については、性別による大きな差は見られませんでした。

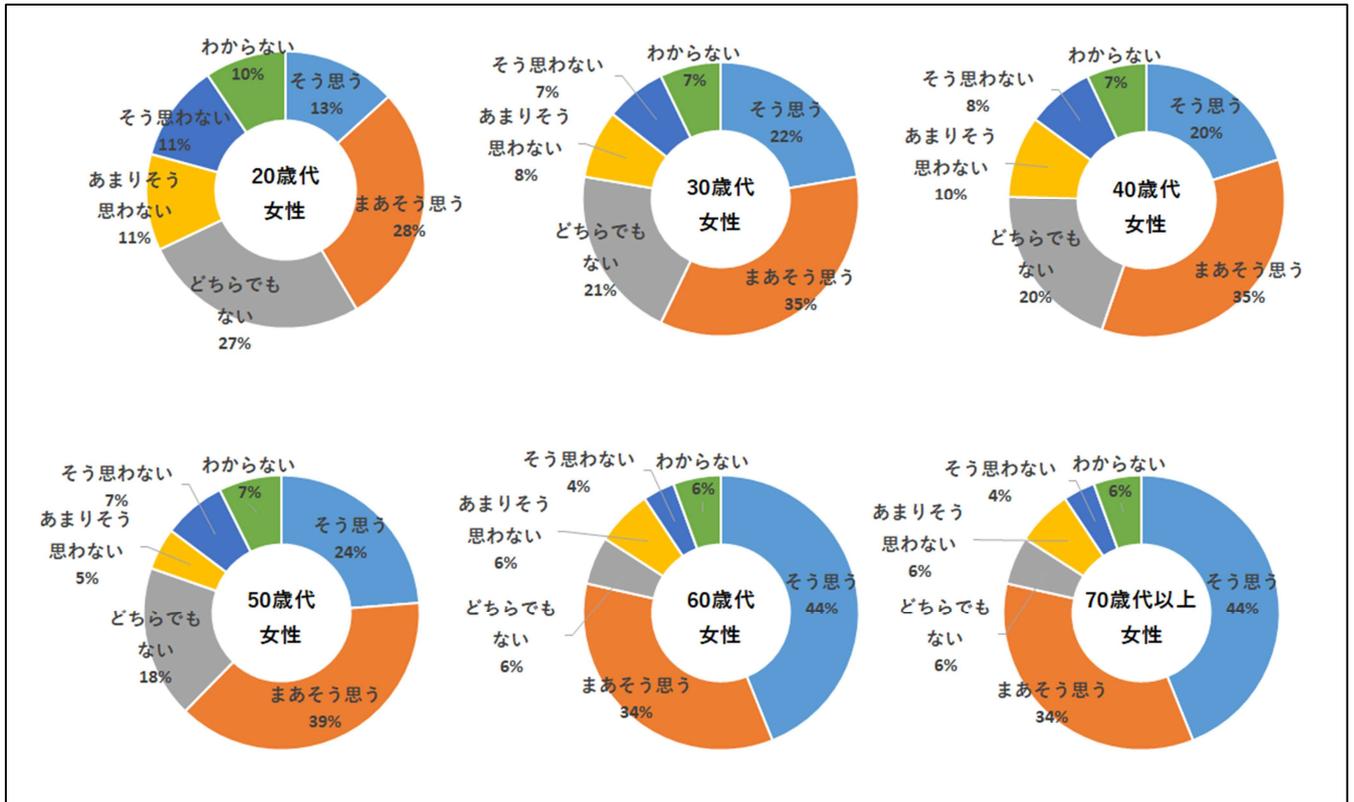
Ⅱ - 2 【男性回答】（世代別）



男性においては、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合が全ての世代において過半数を超えています。

一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は、20歳代が31%となっており、男女を通じて唯一3割を超え、最も高くなっています。

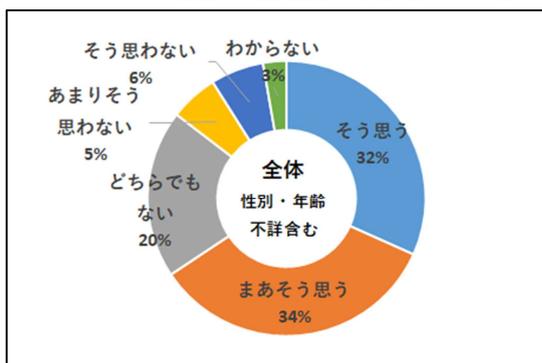
Ⅱ - 3 【女性回答】（世代別）



「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は、世代別では20歳代が最も低くなっていますが（Ⅰ - 2【世代別回答】参照）、特に20歳代の女性が41%となっており、男女を通じて唯一過半数を下回り、最も低くなっています。

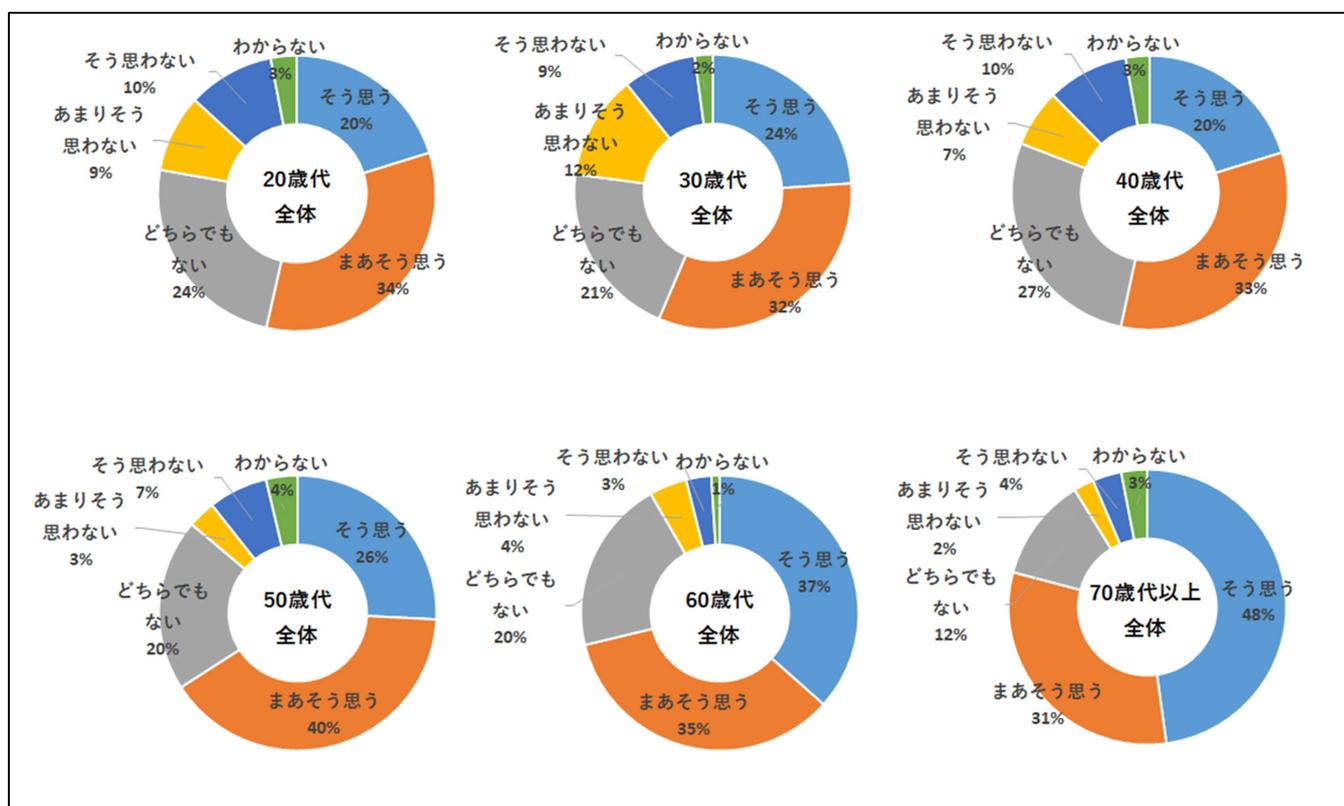
(2) 郷土への愛着 設問：「津山が好きである」

I - 1 【全体回答】（男性・女性・性別不詳・年齢不詳を含む）



市民全体の回答状況を見ると、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は66%でした。一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人は11%となっており、多くの方が津山に愛着を抱いていることがわかります。

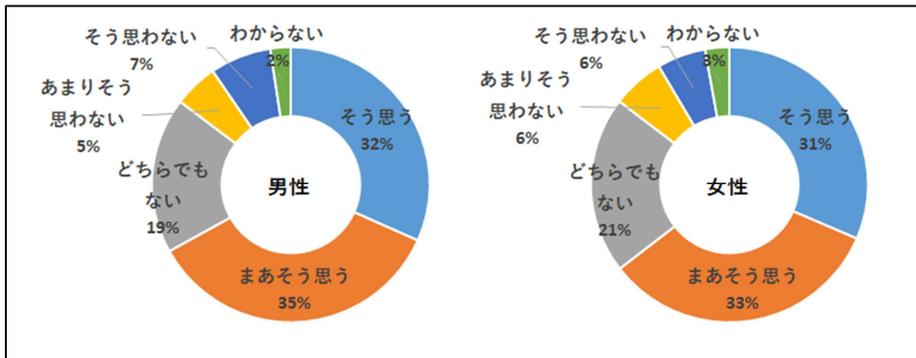
I - 2 【世代別回答】（男性・女性・性別不詳を含む）



世代別に見ると、40歳代以下は、ほぼ同じ結果となっており、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は53%～55%、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は、17%～21%となっています。

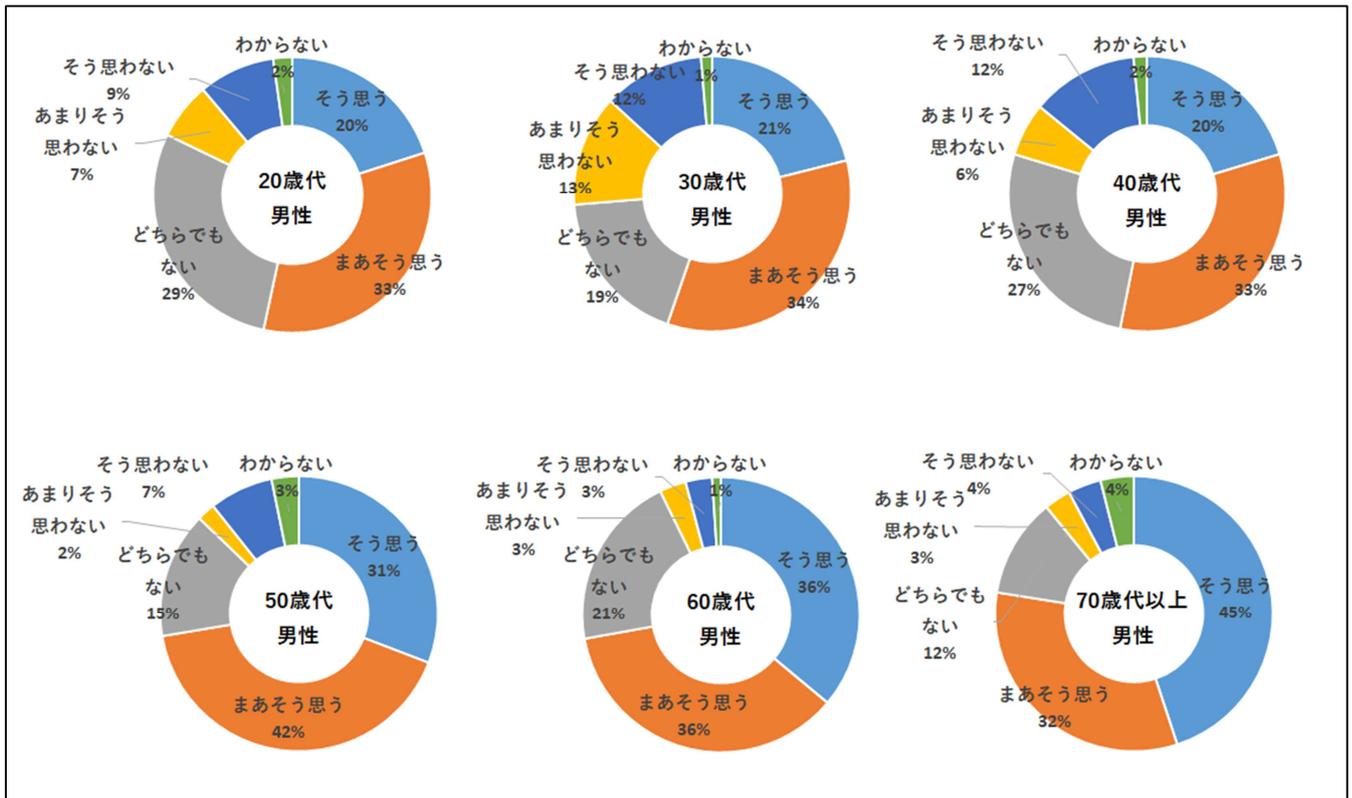
一方、50歳代以上では、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は60%を超え、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は、10%以下に低下しています。

Ⅱ - 1 【男女別回答】（年齢不詳を含む）



「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合は、男性は67%、女性が64%でした。一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人は男性、女性ともに12%となっており、郷土への愛着の回答割合については、性別による大きな差は見られませんでした。

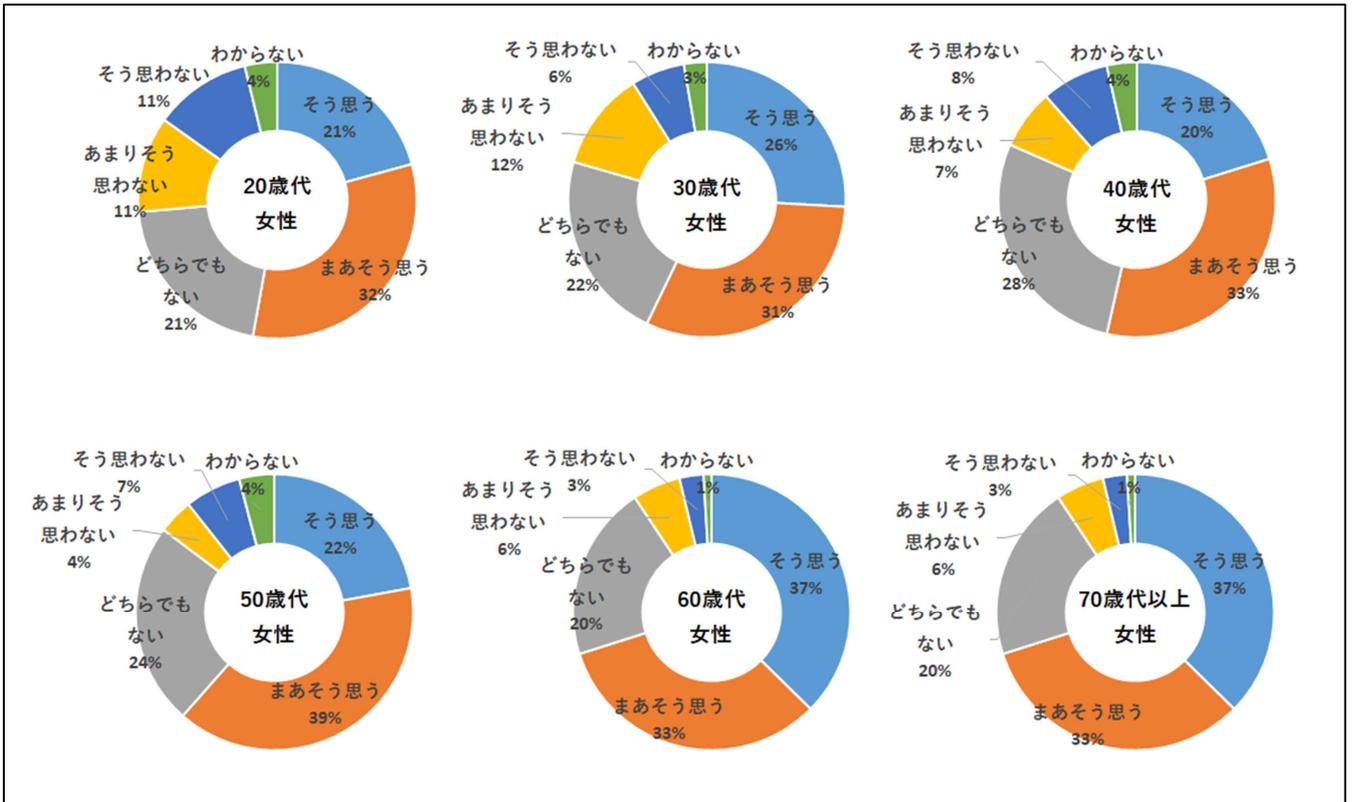
Ⅱ - 2 【男性回答】（世代別）



男性においては、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合が全ての世代において過半数を超えています。

一方、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は、30歳代が25%となっており、男女を通じて最も高くなっています。

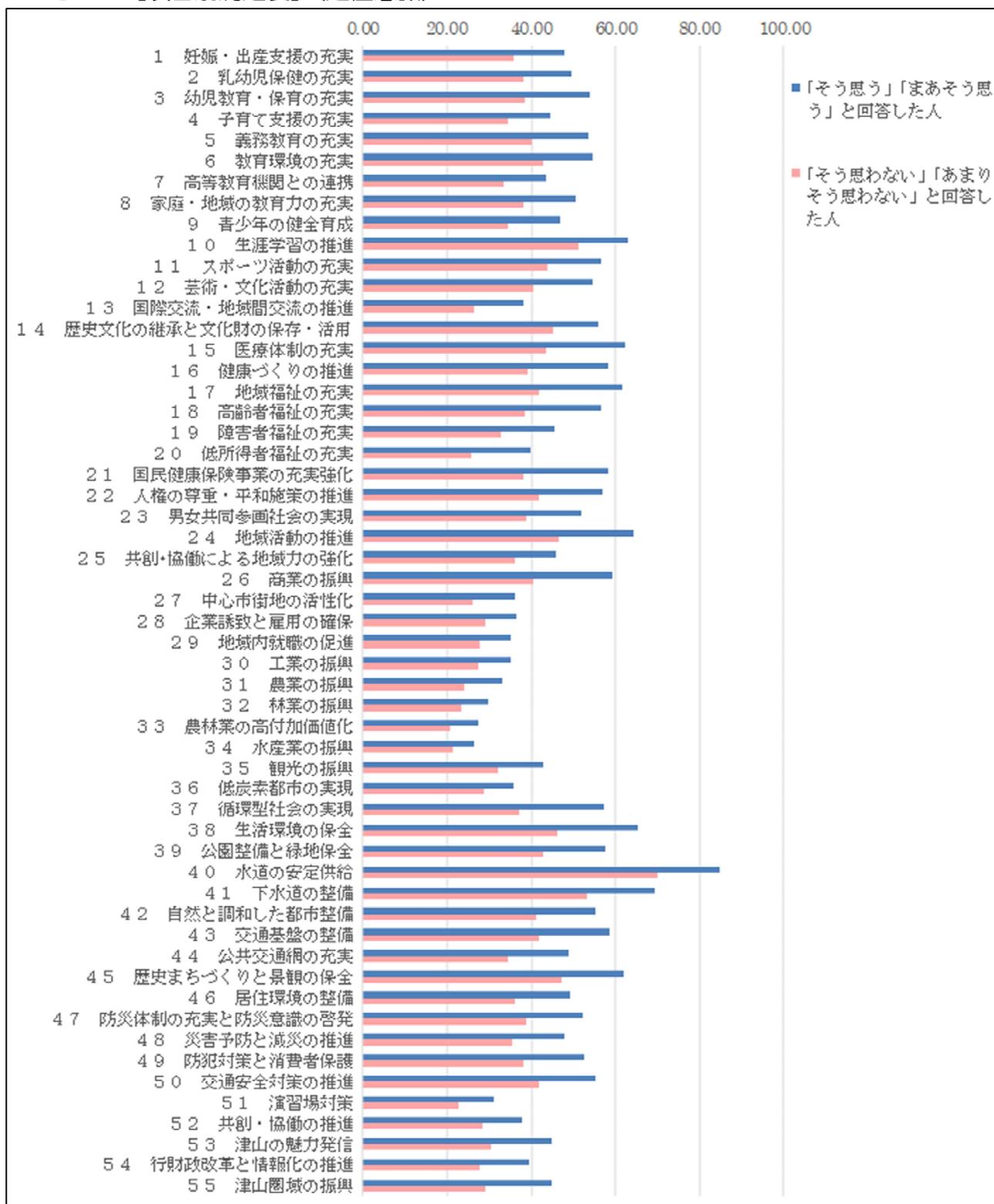
Ⅱ - 3 【女性回答】（世代別）



女性においても、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合が全ての世代において過半数を超えています。Ⅱ - 2【男性回答】（世代別）と比較すると、50歳代の男女差が大きく、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人の割合が、男性が73%であるのに対し、女性は61%と10%以上の差が出ています。

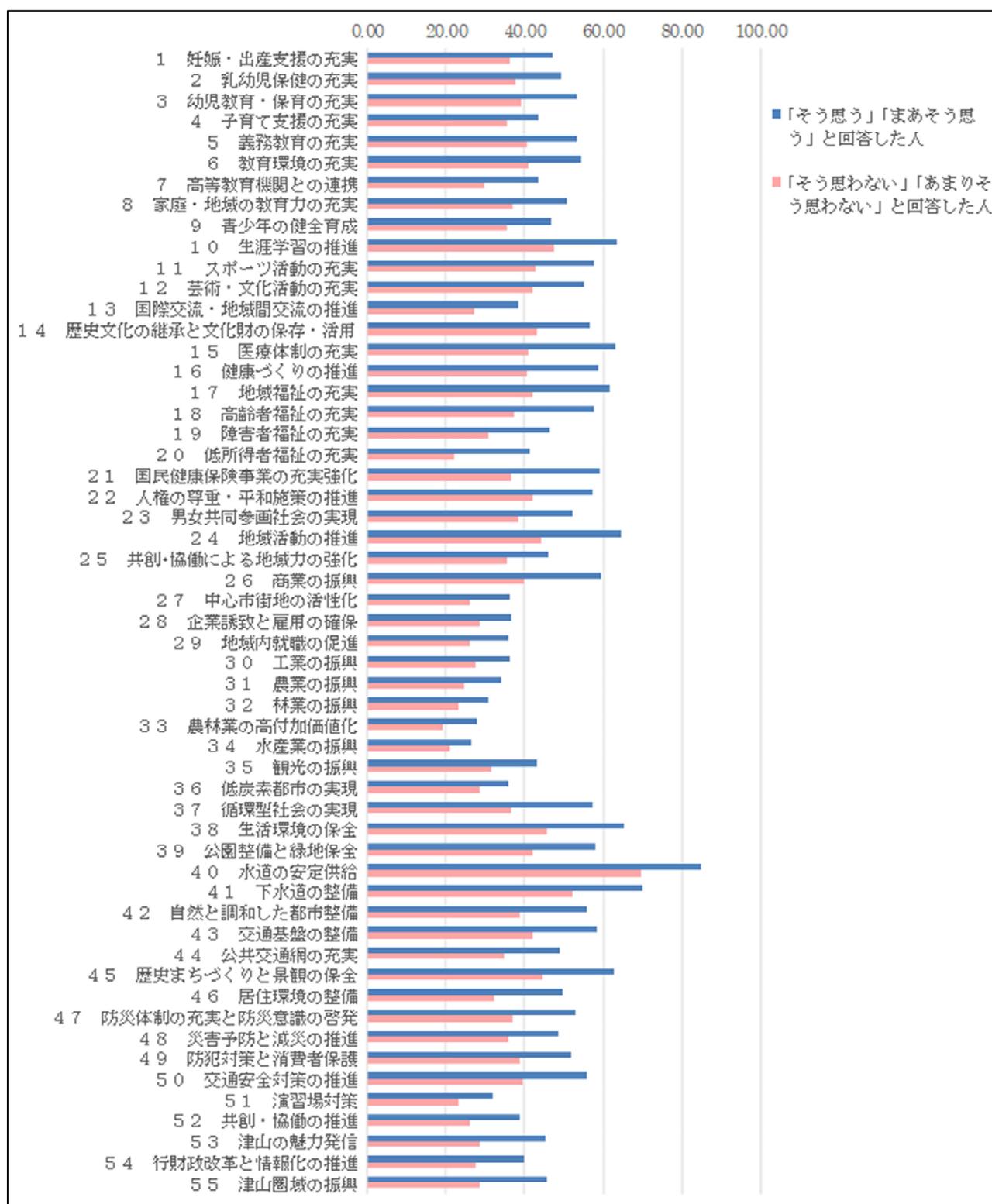
(3) 統括分析【定住意識・郷土への愛着】

I-1 【項目別満足度】(定住意識)



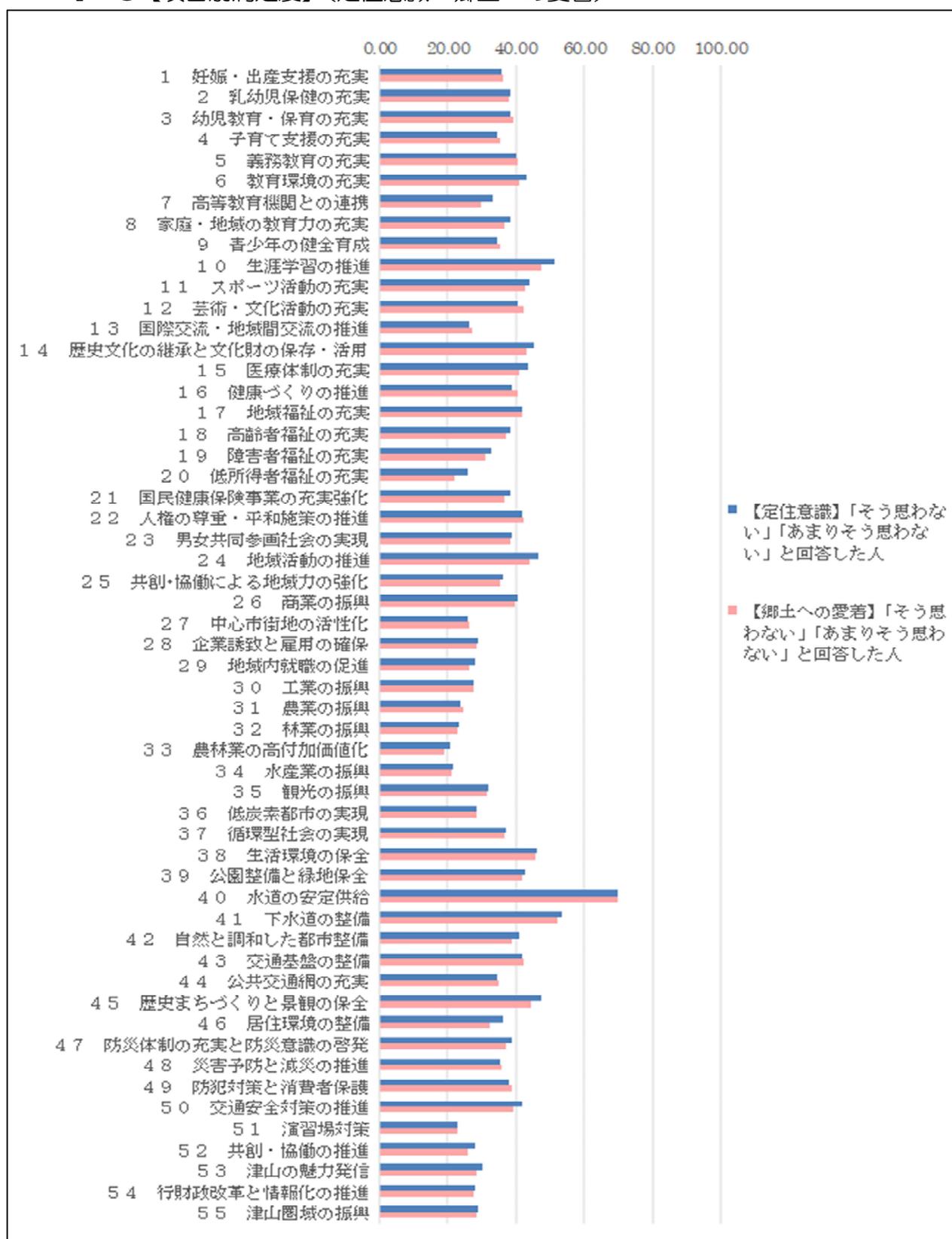
各調査項目ごとの満足度を比較したところ、今後も津山に「住み続けたいと思う人」に比べて、「住み続けたいと思わない人」の満足度は、55項目全ての項目において低い結果となりました。

I-2 【項目別満足度】（郷土への愛着）



各調査項目ごとの満足度を比較したところ、「津山が好きと思う人」に比べて、「津山が好きと思わない人」の満足度も、55項目全ての項目において低い結果となりました。これらのことから、「津山が住みたくない」あるいは、「津山が好きではない」と感じる理由は、ある特定の分野に不満があることによるものではないことがわかります。

I-3 【項目別満足度】（定住意識・郷土への愛着）



「津山に住み続けたいと思わない人」と「津山が好きと思わない人」の各調査項目ごとの満足度を比較したところ、多少の差はあるものの、全ての項目においてほぼ同じ結果となっており、「定住意向」と「郷土への愛着」には、一定の相関関係があるものと考えられます。